

令和 4 年 6 月 30 日現在

機関番号：31307

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2017～2019

課題番号：17H02364

研究課題名（和文）文法性の錯覚から見た第二言語処理の解明と、その英語教育への応用

研究課題名（英文）Second language processing from the perspective of grammatical illusions and its application to English pedagogy

研究代表者

遊佐 典昭 (Yusa, Noriaki)

宮城学院女子大学・学芸学部・教授

研究者番号：40182670

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 12,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、中間言語の性質、獲得、言語処理を、「文法性の錯覚」から解明した。この目的のために、まず「文法性の錯覚」を引き起こす可能性のある数々の文法現象に対して詳細な言語分析を行った。次に、この分析結果に基づき、第二言語で獲得が困難で、使用が難しい文法現象を同定し、それらの文法現象に対して指導（教授）を行い、教授効果があるのかどうかを調査した。また、言語理論に基づいた第二言語獲得研究が、理論言語学と英語教育を結びつけ、教室での語学教育に対してどの程度の知見を与えるのかを検討した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

言語理論に基づいた第二言語獲得研究は、言語理論と第二言語獲得研究の領域にまたがる研究であるが、現状は一種の乖離現象が見られ、両分野は密接に関連しているとは言い難い。本研究は、第二言語学習者のおかず「誤り」を「文法性の錯覚」の観点から分析し、その原因を明らかにすることで、言語理論が第二言語獲得研究に新たな視点をもたらすことを示した。また、非文法的な文を文法的と判断する「文法性の錯覚」の研究成果は、英語の接触量が増えても言語発達が停滞してしまい、「化石化状態」になっている英語学習者の原因解明に今後繋がる可能性がある。その結果、「学習文法」の改善にも寄与する可能性がある。

研究成果の概要（英文）：This project examined the nature, acquisition and processing of interlanguage competence in terms of grammatical illusions, which have been extensively observed in second language acquisition but have not received enough attention. To this end, we made detailed analyses of grammatical phenomena which seem to give rise to grammatical illusions. Based on the results, we have identified linguistic properties which are potentially difficult for second language learners to acquire and resist instruction. Thus, the acceptability of grammatical illusions can diagnose how second language learners construct and access linguistic representations in real-time. We also explored the extent to which linguistic approaches to second language acquisition provide insights for the language classroom and concluded that they can bridge a gap between theoretical linguistics and English pedagogy.

研究分野：英語学

キーワード：文法性の錯覚 時制の獲得 空主語・空目的語 構造依存性 教授効果 介在効果 関係節の文処理 冠詞

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

母語の文理解・産出において、一致 (agreement)、否定対極表現の認可などの領域で、非文法的な文を文法的と誤る「文法性の錯覚」が明らかになっている (Wagner et al. 2009)。例えば、(1b,c) では、主語名詞句の主要部である単数形の key と、動詞 are の持つ数素性が一致しないので非文となるが、母語話者の容認性判断課題では、(1b)が(1c)よりも容認度が高いことが報告されている。また産出においても、(1b)のような例が報告されている。つまり、(1b)では非文法的な文を容認可能であると判断する「文法性の錯覚」が生じていることになる。この容認度の相違は、統語理論・文法理論が予想しないもので、ここに言語処理システム(parser)が関わっていることを示唆される。

- (1) a. The key to the cabinets is on the table.
- b. *The key to the cabinets are on the table.
- c. *The key to the cabinet are on the table.

この現象が興味深いのは、文法的な文を非文法的と錯覚してしまうことは稀で、再帰代名詞解釈や長距離束縛などに関しては「文法性の錯覚」が観察されず選択的である点である。この意味で、文法性の錯覚は、母語話者の言語知識発達と言語処理システムの関係に対して、新しい知見を与える可能性がある (Phillips 2012)。第二言語獲得 (second language acquisition, SLA) 研究でも、言語知識発達と言語処理システムは重要な問題であるが、第二言語学習者の「誤り」を「文法性の錯覚」から扱った研究は、国内外で手付かずの状態であった。

2. 研究の目的

SLA には相反する二つの問題がある。一つは、母語 (L1) 獲得と同様に、経験から帰納できないほど豊かな言語知識を第二言語 (L2) 使用者が獲得する「SLA におけるプラトンの問題」である。この問題は、生成文法に基づいた第二言語獲得研究 (generative approaches to SLA, GenSLA) の中心トピックで今まで多くの研究がなされてきた (Schwartz and Sprouse 2013)。申請者らは、人間言語の普遍的特徴と仮定されている「構造依存性の原理」が SLA でも機能しており、L2 の感受性期を超えた日本人英語学習者でも、適切なトレーニングで、経験以上の統語知識を獲得することが可能であることを、機能的磁気共鳴画像法 (fMRI) を用いて脳科学から示すことに成功した (Yusa et al. 2011)。この結果は、外国語環境でも、人間言語の中心的原理 (構造依存性) に関しては、年齢効果がなく L1 と L2 の文処理は、根本的には異なることを示している。

しかし、この結果は同時にそれならば、なぜ L2 では豊かな言語経験にもかかわらず限られた知識しか得られないのかという「SLA におけるオーウェルの問題」を引き起こすことになる。この問題自体は、L1 の転移や臨界期・感受性期の研究以来、長い歴史があるが、L2 の文法発達と文処理メカニズムを統合した研究は少ない。L2 の文法発達研究から、屈折形態素が SLA 発達のボトルネックとなることが提案されている (Slabakova 2008, 2013)。また、統語部門と談話のインターフェイスに関する言語知識が、言語処理や言語以外の認知能力に負荷をかけ、獲得を困難にしていることが指摘されている (Sorace 2011)。一方、L2 の文処理研究は、袋小路文や関係節の処理などに限られており、研究が大きく遅れているのが現状である。しかし、SLA では L1 獲得以上に、言語入力「インテイク」(intake)が、文法発達に大きな影響を及ぼす (Piske and Young-Scholten 2009) ことを考慮すると、「文法性の錯覚」に基づいた L2 文処理メカニズム研究は、L2 の文法発達を解明する上で極めて重要であり、従来の SLA 研究に欠けていた視点であると言える。例えば、非文法的な文の入力を錯覚で文法的と理解しているために、中間言語文法の再構築を促す入力不足し、再構築が行われない可能性がある。また、学習者が使用する教材で用いられる「過度に単純化された文法規則」が、言語入力の取り込みや、言語知識の発達を阻害する可能性がある。「文法性の錯覚」は、SLA では頻繁に見られる言語現象であるにもかかわらず、SLA の「誤り」は、このような観点からは捉えられてこなかった。

本研究は、(1) 日本人英語学習者が、豊かな言語経験にもかかわらず限られた知識しか得られないという問題を、「文法性の錯覚」から捉え直し、言語理論、言語処理、脳科学の観点から総合的に研究・解明する。(2) さらに、文法性の錯覚から逃れるための方略を提案することで、言語学に基づいた英語教育へと展開するための研究基盤を確立する。

3. 研究の方法

本研究の研究体制は、研究統括の遊佐のもと、言語理論、第二言語獲得、音韻論、言語処理、言語脳科学などを専門とする分担研究者からなり、個人研究を中心としながら研究目標を達成することに努めた。具体的な研究方法は以下の通りである。

- まず、本研究は、日本人英語学習者の「文法性の錯覚」を、(1) 文理解過程、(2) 文発話過程、(3) 言語発達過程、(4) 教授効果の影響を研究対象として、言語理論、行動実験、脳機能計測の

観点から総合的に解明するために、まず「文法性の錯覚」を引き起こす可能性のある文法現象を同定し、詳細な言語分析を行う。次に、「文法性の錯覚」が言語知識の欠陥を意味するのか、あるいは言語処理の問題なのかということを探るために行動実験を行う。さらに、日本人英語学習者にとって獲得が難しい文法現象に関して教授の介入を行うことで、教授効果があるのどうかを検証する。これに加えて、教授を含めた入力に関して脳科学からの基礎研究を行う。

4. 研究成果

2019 年度後半以降の研究においては、新型コロナウイルス拡大の影響で予定していたデータ収集や言語獲得・処理実験、脳科学実験が実施できないものがあり大きな影響をうけ、研究計画を変更せざるをえなかった。特に、「文法性の錯覚」を免れるための「適切な対面指導（授業）」が遂行できなかったため、脳機能変化を探る実験ができなかった。しかし、このような厳しい状況にもかかわらず、言語理論、特に生成文法理論の観点から以下の項目の言語特性を調べ学会発表や論文、著書で研究成果の一部を発表することができた（研究業績参照）。また、特定の言語現象が英語特有の現象か普遍的な現象かを調べるために英語以外の言語を対象として、関連領域の研究も行った。本研究で扱った主な言語現象は以下の通りである。

- (2) 時制、Be 動詞の過剰生成、関係節の文処理、構造依存性、総称用法の冠詞、繰り上げ構文とコントロール構文、再帰代名詞、WH 疑問文、空主語・空目的語、項削除、例外的格付与構文、語彙処理、介在効果、韻律構造、スカラー含意、語順、二重目的語など

研究成果が多岐に渡るため個々の詳細は研究業績を参照していただきたいが、SLA における「文法性の錯覚」の研究を行うためには、言語現象の詳細な分析が基盤となる¹。「文法性の錯覚」を通して、言語理論や GenSLA が教室での英語教育にどのように貢献するのかを検討するには、まず「第二言語獲得」の「言語」をどのように定義するかが問題となる。言語とは、L1、L2 に関係なく脳に実在する言語知識であることは、言語理論にかかわらず明白な事実である。しかし、SLA 研究ではこの事実がしばしば看過され、「第二言語はどのように学ばれるのか」や「第二言語の効果的な指導法は何か」といった議論が行われ、その結果として言語理論との接点がないことがある。生成文法では、脳内の言語知識は、心的表示 (mental representation) に「演算」が加わることで特徴づけられると仮定しているために、詳細な言語現象分析が必要となる。このために、(2) にあげた項目に関して、詳細な言語分析を行った。

言語分析が、「文法性の錯覚」を解明する上で不可欠であることを示す例として、日本人英語学習者の英語の時制の問題を考えてみる。具体的には、日本人英語学習は、(3a) を使うべきところで (3b) のように「三人称単数現在の s」を省略してしまう場合がある。この問題は、明示的知識があるにもかかわらず、英文を話したり書いたりする時に、どうしてこの「簡単な規則」が使えないのかという問題であり、「文法性の錯覚」として捉えることができる。

- (3) a. John often plays tennis.
b. *John often play tennis.
c. *John is often play tennis.

遊佐・大滝 (2020) は、「三人称単数現在の s」の問題を生成文法理論の観点から扱い、(3b) のような例は、時制に関する文法情報が欠如していることを示していないことを証明した。また「三人称単数現在の s」に関する明示的な知識があるにもかかわらず、英語使用の場で問題が生じるのは、言語使用の段階でこの知識にアクセスする時に問題が生じることを示した。さらに、英語教育で従来から問題になっていた、(3c) のような「be 動詞の過剰生成」が時制の具現化であること、また時制の具現化として do ではなく be 動詞が用いられる理由を、言語理論から説明した。このような英語教育で頻繁に出現する「誤り」を「文法性の錯覚」という観点から分析し、新たな知見を得られたのは、詳細な言語分析と言語理論を用いたからである。さらに、この研究に基づき、山田 (2021) は、文法性の錯覚を文処理の観点から検討を行い、文法性の錯覚から得られた知見が英語教育に応用できる可能性があることを示唆した。

同様に、第二言語獲得研究における統語理論の重要性を示したものに宮本・山田 (2020) がある。日本語は、時制節で発音しない空主語や空目的語を許す言語である。母語の影響で、日本人英語学習者は、英語を産出するさいに主語や目的語を省略することが知られており、「文法性の錯覚」の例である。日本語の空主語・空目的語には非顕在的代名詞要素 *pro* が仮定されてきたが、比較統語論の進展により日本語の空主語・空目的語は *pro* とは異なる性質を有することが明らかになった。この研究成果に基づき、宮本・山田 (2020) は、日本語空主語・空目的語を含む文における「緩やかな同一性解釈」(sloppy reading) の可否から新しい習得データを提示し、Saito (2007) の枠組みで空主語・空目的語を項削除として捉えている。項削除が人称、数、性等の素性を欠いた言語にのみ許されるという分析が正しければ、日本人英語学習者が英語では空主語・空目的語が許されないことを習得するためには、素性の一致を学ぶ必要があるとの洞察を得ることができる。

教授効果に関しては、主に次の項目の検討が行われた。

(4) 冠詞の教授効果、関係節の教授効果、普遍文法の特徴が関与する文法現象の教授効果

まず、冠詞の明示的指導は、短期的効果は生みだすが、長期的な持続的効果はもたらさず、「文法性の錯覚」は解消されないことが明らかになった(Umeda et al. 2019)。学習者が使用する教材で用いられる「過度に単純化された文法規則」が入力を取り込みや、言語知識の発達を阻害する可能性があるため、通常の文法書で言及されていないが、言語研究が明らかにした規則を教授したが、長期的な教授効果は生まなかった。今後、言語入力の観点から研究を継続する予定であるが、脳に実在する言語知識を明示的に教えることは、原理的に不可能であり、心的表示を再構築するためには豊富な肯定証拠が必要になるとと思われる。

次に、関係節の教授効果に関しては、特に目的語関係代名詞の「文法性の錯覚」を扱った。関係節内における主語代名詞が、目的語関係節の処理負担を減らし「文法性の錯覚」が軽減される可能性が示唆された。このことは、目的語関係節の指導法において、主語代名詞を用いることの有効性が考えられるが、Douglas (2019)、Douglas et al. (2021)の研究成果をふまえて詳細な検討が必要である。

教室での指導効果研究では、多くの研究で指導直後の指導効果を測定しているために、実験結果が暗示的知識を反映しているのか、指導内容のメタ言語知識なのかを区別することが困難である。この問題を解決するために、文法規則指導の半年後の文法性判断課題と脳活動を計測した。文法性判断課題の結果は、指導前と半年後では有意差があったが、指導直後と半年後では有意差がなかった。同様に文法規則の獲得に関わるブローカ野の賦活も、指導前と半年後では有意差があったが、指導直後と半年後には有意差がなかった。このことは、指導効果が半年後も持続しており、指導が暗示的知識を生み出した可能性を示唆している。しかし、この結果は明示的な指導が短期的な効果しかもたらさないとする White (1991)、Umeda et al. (2019)の結果と矛盾するように思える。しかし、ここで指導した文法規則は、普遍文法の特徴を反映した構造依存性に関わるもので、この場合は単純なインプットを与えるだけで複雑な規則が身につく、その教授効果が持続することが明らかになった(論文投稿中)。

最後に、外国語教育では、コミュニケーション能力が重要視されるが、その基盤となる心的表示の構築が重要である。この心的表示の構築には、入力(言語入力、指導)、生得的資質である普遍文法、言語処理メカニズムを考慮する必要がある。明示的知識がうみだす言語表現を、意味を考慮しながらコミュニケーションの場で使用することで、心的表示の発達を促進する可能性は十分にある。また、言語知識は抽象的な言語構造に依存するので、表層的語順に基づいた説明は言語知識を育まないことになる。外国語としての英語環境にいる我が国では、接触量が限られているために、取り込み可能な言語入力を与えることが重要であり、その意味で、「文法性の錯覚」の研究は、英語教育に大きな貢献が可能であると思える。

今後、本研究課題の成果に基づいた専門書を執筆すると同時に、一般書や文法書の形で研究成果を社会に還元することで、英語の接触量の増加にも拘わらず停滞期にいる日本人英語学習者の英語習得の向上に微力ながら貢献したいと願っている。

¹ 以下の説明は、本研究の成果である、遊佐 (2019) 「生成文法に基づいた第二言語獲得研究と外国語教育のインターフェイス」、遊佐・杉崎・小野 (2018) 「最新の言語獲得研究と文処理研究の進展」からの引用を含む。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計52件（うち査読付論文 39件 / うち国際共著 21件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 Yoshimura Noriko, Nakayama Mineharu, Fujimori Atsushi, Yusa Noriaki	4. 巻 -
2. 論文標題 Syntactic Knowledge and Context Sensitivity: Evidence from Japanese EFL Learners on the Processing of Raising Constructions in English	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 JSLs 2019 Conference Handbook	6. 最初と最後の頁 103-109
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 Yoshimura Noriko, Nakayama Mineharu, Fujimori Atsushi, Yusa Noriaki	4. 巻 26
2. 論文標題 L1 Transfer and Locality in Reflexive Resolution in L2 Raising Constructions	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Ars Linguistica	6. 最初と最後の頁 65-76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 Yoshimura Noriko, Nakayama Mineharu	4. 巻 -
2. 論文標題 Intervention meets transfer in raising constructions	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Proceedings of GALA 2017	6. 最初と最後の頁 251-266
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 Snape Neal	4. 巻 18
2. 論文標題 The acquisition of articles: The story so far	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Second Language	6. 最初と最後の頁 7-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yi EunKyung, Koenig Jean-Pierre, Roland Douglas	4. 巻 30
2. 論文標題 Semantic similarity to high-frequency verbs affects syntactic frame selection	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Cognitive Linguistics	6. 最初と最後の頁 601 ~ 628
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1515/cog-2018-0029	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Roland Douglas	4. 巻 118(63)
2. 論文標題 Relative Clause Processing by L2 speakers of English	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 IEICE Technical Report TL2018-17	6. 最初と最後の頁 67-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浅見 紫織, ローランド ダグラス, 森島 泰則	4. 巻 61
2. 論文標題 英語学習者向け代名詞処理を伴うリーディングスパン テストの材料文開発	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 教育研究	6. 最初と最後の頁 81 ~ 90
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Koizumi Masatoshi, Takeshima Yasuhiro, Tachibana Ryo, Asaoka Riku, Saito Godai, Niikuni Keiyu, Gyoba Jiro	4. 巻 35
2. 論文標題 Cognitive loads and time courses related to word order preference in Kaqchikel sentence production: an NIRS and eye-tracking study	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Language, Cognition and Neuroscience	6. 最初と最後の頁 137 ~ 150
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/23273798.2019.1650945	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Rodrigo Laura, Tanaka Mikihiro, Koizumi Masatoshi	4. 巻 4
2. 論文標題 The role of word order in bilingual speakers' representation of their two languages: the case of Spanish?Kaqchikel bilinguals	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Cultural Cognitive Science	6. 最初と最後の頁 275 ~ 291
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Miyagawa Shigeru, Wu Danfeng, Koizumi Masatoshi	4. 巻 4
2. 論文標題 Inducing and blocking labeling	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Glossa: a journal of general linguistics	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Yano Masataka, Niikuni Keiyu, Ono Hajime, Sato Manami, Tang Apay Ai-yu, Koizumi Masatoshi	4. 巻 28
2. 論文標題 Syntax and processing in Seediq: an event-related potential study	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of East Asian Linguistics	6. 最初と最後の頁 395 ~ 419
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/S10831-019-09200-9	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Nasukawa Kuniya, Backley Phillip	4. 巻 22
2. 論文標題 Phonological evidence for segmental structure: Insights from vowel reduction	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Phonological Studies	6. 最初と最後の頁 51-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Backley Phillip, Nasukawa Kuniya	4. 巻 20
2. 論文標題 Conditions on the variable interpretation of U in Japanese	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Linguistic Variation	6. 最初と最後の頁 84 ~ 101
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1075/iv.16012.bac	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Koichi Otaki, Sugisaki Koji, Yusa Noriaki, Koizumi Masatoshi	4. 巻 156
2. 論文標題 Two Routes to the Mayan VOS: From Evidence from Kaqchikel	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 言語研究	6. 最初と最後の頁 25 ~ 45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11435/gengo.156.0_25	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Otaki Otaki, Sato Manami, Ono Hajime, Sugisaki Koji, Yusa Noriaki, Kaitapu Soana, Veikune Ana Heti, Vea Peseti, Otsuka Yuko, Koizumi Masatoshi	4. 巻 44
2. 論文標題 The Ergative Subject Preference in the Acquisition of Wh-questions in Tongan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Proceedings of the 44th annual Boston University Conference on Language Development	6. 最初と最後の頁 465-478
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Nakayama Muneharu, Yoshimura Noriko	4. 巻 19
2. 論文標題 Japanese EFL learners' null subjects in the Control and seem raising constructions	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Second Language	6. 最初と最後の頁 7-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Miyamoto Yoichi, Yamada Kazumi	4. 巻 36
2. 論文標題 On null arguments and phi-features in second language acquisition	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Japanese Linguistics	6. 最初と最後の頁 179 ~ 223
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1515/jjl-2020-2024	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sato Manami, Niikuni Keiyu, Schafer Amy J., Koizumi Masatoshi	4. 巻 29
2. 論文標題 Agentive versus non-agentive motions immediately influence event apprehension and description: an eye-tracking study in a VOS language	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of East Asian Linguistics	6. 最初と最後の頁 211 ~ 236
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10831-020-09205-9	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Ono Hajime, Kim Jungho, Sato Manami, Tang Apay Ai-yu, Koizumi Masatoshi	4. 巻 29
2. 論文標題 Syntax and processing in Seediq: a behavioral study	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of East Asian Linguistics	6. 最初と最後の頁 237 ~ 258
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10831-020-09207-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Yoshimura Noriko, Nakayama Muneharu, Fujimori Atsushi	4. 巻 27
2. 論文標題 ECM passives in L2 English	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Ars Linguistica	6. 最初と最後の頁 56-72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Roland Douglas, Mauner Gail, Hirose Yuki	4. 巻 119
2. 論文標題 The processing of pronominal relative clauses: Evidence from eye movements	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Memory and Language	6. 最初と最後の頁 104244 ~ 104244
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jml.2021.104244	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yusa Noriaki	4. 巻 37
2. 論文標題 Noriko Yoshimura and Mineharu Nakayama: An invitation to second language acquisition research: From theory to experiment]	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Japanese Linguistics	6. 最初と最後の頁 125 ~ 131
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1515/jjl-2021-2035	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yamada Toshiyuki	4. 巻 70
2. 論文標題 Illusions in L2 Learners: A New Use of Data for Error Analysis	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 群馬大学共同教育学部紀要. 人文・社会科学編	6. 最初と最後の頁 129-143
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田敏幸	4. 巻 -
2. 論文標題 なぜ日本人英語学習者は「3単現-s」が苦手なのか: 「文法性の錯覚化」からの検討	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本言語学会第163回大会予稿集	6. 最初と最後の頁 262-268
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nasukawa Kuniya	4. 巻 -
2. 論文標題 No reference to precedence in English affixation	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Phonological Externalization	6. 最初と最後の頁 25-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamada Toshiyuki	4. 巻 71
2. 論文標題 Effective Teaching and Efficient Learning in English Language Education at School in Japan: The Grammatical-Illusion Turn	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 群馬大学共同教育学部紀要. 人文・社会科学編	6. 最初と最後の頁 105-120
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Backley Phillip, Nasukawa Kuniya	4. 巻 105
2. 論文標題 Changing English: Modern RP Pronunciation	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Tohoku Gakuin University Review: Essays and Studies in English and Literature	6. 最初と最後の頁 23-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kiyama Sachiko, Koizumi Masatoshi, Yusa Noriaki	4. 巻 20
2. 論文標題 Sensitivity to pragmatic markers predicts the degree of autism and depression in older adults: Evidence from sentence-final expressions in Japanese	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Proceedings of the 20th Conference of the Pragmatics Society of Japan	6. 最初と最後の頁 273-276
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yusa Noriaki	4. 巻 8
2. 論文標題 Input effects on the development of L1-language in L2 acquisition	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Linguistic Approaches to Bilingualism	6. 最初と最後の頁 792 ~ 796
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1075/lab.18081.yus	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Snape Neal	4. 巻 2
2. 論文標題 Definite generic vs. definite unique in L2 acquisition	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of the European Second Language Association	6. 最初と最後の頁 83 ~ 83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.22599/jesla.46	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Snape Neal, Hosoi Hironobu	4. 巻 8
2. 論文標題 Acquisition of scalar implicatures	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Linguistic Approaches to Bilingualism	6. 最初と最後の頁 163 ~ 192
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1075/lab.18010.sna	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Snape Neal, Umeda Mari	4. 巻 2
2. 論文標題 Addressing fluctuation in article choice by Japanese learners of L2 English through explicit instruction	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Instructed Second Language Acquisition	6. 最初と最後の頁 164-188
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1558/isla.35594	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Umeda Mari、Snape Neal、Yusa Noriaki、Wiltshier John	4. 巻 23
2. 論文標題 The long-term effect of explicit instruction on learners' knowledge on English articles (Online 2017)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Language Teaching Research	6. 最初と最後の頁 179 ~ 199
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/1362168817739648	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Yoshimura Noriko, Nakayama Mineharu, Fujimori Atsushi	4. 巻 TL2018-14.
2. 論文標題 Intervention Effects in L2 Acquisition; A Syntactic or Processing Account?	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 IEICE Technical Report	6. 最初と最後の頁 13-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Fujimori Atsushi, Yamane Noriko, Yoshimura Noriko	4. 巻 24
2. 論文標題 Japanese EFL Learners' Prosodic Production of Pronouns in English: A Preliminary Study	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Ars Linguistica	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nakayama Mineharu, Yoshimura Noriko, Fujimori Atsushi	4. 巻 35
2. 論文標題 Intervention in Japanese EFL Learners' control Constructions with Quantifiers	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 English Linguistics	6. 最初と最後の頁 221-240
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 岡本吉世, 鄭嫣	4. 巻 44
2. 論文標題 第二言語学習者の意味曖昧性解消に関する認知メカニズムの解明: fMRI 研究	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 全国英語教育学会第44回京都研究大会予稿集	6. 最初と最後の頁 576-577
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hsieh MC, Jeong H, Sugiura M, Kawashima R	4. 巻 20
2. 論文標題 Bilinguals' lexical access of cognates in the brain: Effects of language memberships	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Proceedings of The 20th Annual International Conference of the Japanese Society for Language Sciences	6. 最初と最後の頁 34-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Asami Shiori, Roland Douglas, Morishima Yasunori	4. 巻 61
2. 論文標題 Developing the materials of a reading span test for English learners involving pronoun resolution.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 教育研究. Educational Studies	6. 最初と最後の頁 81-90
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Roland Douglas, Hirose Yuki, Mauner Gail	4. 巻 TL2018-17
2. 論文標題 Eye movement data and the causes of relative clause difficulty	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 IEICE Technical Report	6. 最初と最後の頁 27-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamada Toshiyuki	4. 巻 68
2. 論文標題 Frequently observed grammatical errors of Japanese EFL learners: Their theoretical implications	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Annual Reports of the Faculty of Education, Gunma University, Cultural Science Series	6. 最初と最後の頁 129-140
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 NASUKAWA KUNIYA, BACKLEY PHILLIP, YASUGI YOSHIHO, KOIZUMI MASATOSHI	4. 巻 55
2. 論文標題 Challenging cross-linguistic typology: Right-edge consonantal prominence in Kqchikel	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Linguistics	6. 最初と最後の頁 611 ~ 641
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/S0022226718000488	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yano Masataka, Koizumi Masatoshi	4. 巻 33
2. 論文標題 Processing of non-canonical word orders in (in)felicitous contexts: evidence from event-related brain potentials	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Language, Cognition and Neuroscience	6. 最初と最後の頁 1340 ~ 1354
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/23273798.2018.1489066	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nasukawa Kuniya, Backley Phillips	4. 巻 21
2. 論文標題 H and L have unequal status	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Phonological Studies	6. 最初と最後の頁 41-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Umeda Mari、Snape Neal、Yusa Noriaki、Wiltshier John	4. 巻 OnLine First
2. 論文標題 The long-term effect of explicit instruction on learners' knowledge on English articles	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Language Teaching Research	6. 最初と最後の頁 1-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/1362168817739648	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Minamoto Yoichi, Yamada Kazumi	4. 巻 -
2. 論文標題 On a mixed nature of L3 Spanish grammar of L1 Japanese subjects with L2 English	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Proceedings of the International Symposium on Monolingual and Bilingual Speech 2017	6. 最初と最後の頁 193-198
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamada Toshiyuki	4. 巻 117
2. 論文標題 Why do L2 learners accept ungrammatical sentences? A preliminary study?	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 IEICE Technical Report	6. 最初と最後の頁 91-96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamada Toshiyuki	4. 巻 17
2. 論文標題 A preliminary study on why second language learners accept ungrammatical sentences: Its practical implications	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 群馬大学教科教育学研究	6. 最初と最後の頁 31-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sauerland Uli, Tamura Ayaka, Koizumi Masatoshi, Tomlinson John M.	4. 巻 -
2. 論文標題 Tracking Down Disjunction	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 New Frontiers in Artificial Intelligence 109	6. 最初と最後の頁 109 ~ 121
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-3-319-50953-2_9	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Yano Masataka, Suzuki Yui, Koizumi Masatoshi	4. 巻 47
2. 論文標題 The Effect of Emotional State on the Processing of Morphosyntactic and Semantic Reversal Anomalies in Japanese: Evidence from Event-Related Brain Potentials	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of Psycholinguistic Research	6. 最初と最後の頁 261 ~ 277
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10936-017-9528-5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hsieh Ming-Che, Jeong Hyeonjeong, Dos Santos Kawata Kelssy Hitomi, Sasaki Yukako, Lee Hsun-Cheng, Yokoyama Satoru, Sugiura Motoaki, Kawashima Ryuta	4. 巻 174
2. 論文標題 Neural correlates of bilingual language control during interlingual homograph processing in a logogram writing system	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Brain and Language	6. 最初と最後の頁 72 ~ 85
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.bandl.2017.06.006	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Nasukawa Kuniya, Phillip Backley Phillip	4. 巻 21
2. 論文標題 H and L have unequal status	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Phonological Studies	6. 最初と最後の頁 41-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

[学会発表] 計87件(うち招待講演 22件/うち国際学会 69件)

1. 発表者名 Yusa Noriaki, Otaki Koichi
2. 発表標題 Be-Support in Second Language Acquisition: A Preliminary Study
3. 学会等名 14th Generative Approaches to Language Acquisition (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yoshimura Noriko, Nakayama Muneharu, Fujimori Atsushi, Yusa Noriaki
2. 発表標題 L1 transfer and locality in reflexive resolution in L2 raising constructions
3. 学会等名 14th Generative Approaches to Language Acquisition (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Snape Neal, Hirakawa Makiko, Mathews John
2. 発表標題 Japanese and Thai L2 acquisition of English tense and aspect agreement
3. 学会等名 14th Generative Approaches to Language Acquisition (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Snape Neal, Hirakawa Makiko, Mathews John
2. 発表標題 Tense/aspect-agreement violations in Japanese L2 English
3. 学会等名 English Linguistic Society of Japan the 12th International Spring Forum (国際学会)
4. 発表年 2019年

1 . 発表者名 Snape Neal
2 . 発表標題 Instruction without acquisition: Teaching the use of English articles
3 . 学会等名 the 19th Annual Conference of Japan Second Language Association (J-SLA 2019) (招待講演) (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Umeda Mari, Snape Neal, Hirakawa Makiko, Matthews John
2 . 発表標題 Native and non-native processing of Japanese reflexive zibun: An investigation of subject-orientation
3 . 学会等名 Generative Approaches to Second Language Acquisition (GASLA) (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Yoshimura, Noriko, Minehara Nakayama, Atsushi Fujimori, Noriaki Yusa
2 . 発表標題 Syntactic Knowledge and Context Sensitivity: Evidence from Japanese EFL Learners on the Processing of Raising Constructions in English
3 . 学会等名 The Japanese Society for Language Sciences 21st Annual International Conference (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Okamoto K, Jeong H, Cui H, Kawashima R, Sugiura M
2 . 発表標題 Translation ambiguity resolution in second language learners: an fMRI study
3 . 学会等名 The Japanese Society for Language Sciences 21st Annual International Conference (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1. 発表者名 Yoshimura Noriko, Nakayama Mineharu
2. 発表標題 Subjects of the “A-movement” Constructions in Japanese EFL Learners’ Grammar
3. 学会等名 第二言語習得学会国際大会（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中山峰治、吉村紀子
2. 発表標題 日本人英語学習者による繰り上げ構文
3. 学会等名 The 2nd OSU-Tsukuba Joint Linguistics Workshop（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中山峰治、吉村紀子
2. 発表標題 日本人英語学習者の繰り上げ構文の理解に見られる介在効果と主語について
3. 学会等名 東北大学文学研究科言語学研究室講演会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉村紀子、中山峰治
2. 発表標題 日本人学習者の英語不定詞の主語：コントロール構文と主語繰り上げ構文の習得調査から
3. 学会等名 日本第二言語習得学会（J-SLA）秋の研修会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Cui H, Jeong H, Okamoto K, Takahashi D, Kawashima R, Sugiura M
2. 発表標題 Neural Integration of Linguistic Expressions and Sociocultural Conventions in Comprehending Socio-pragmatic Knowledge: The Case of Japanese Honorific Expressions
3. 学会等名 The 42st Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Roland Douglas
2. 発表標題 Relative Clause Processing by L2 speakers of English
3. 学会等名 Mental Architecture of Processing and Learning of Language 2019 (MAPLL-TCP-TL 2019) (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Roland Douglas
2. 発表標題 Syntax: Computational models of sentence-level language comprehension
3. 学会等名 日本語学会158回大会ワークショップ (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宮本陽一
2. 発表標題 非頭在的であるということ
3. 学会等名 日本第二言語習得学会(J-SLA)秋の研修会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kim Jungho, Koizumi Masatoshi, Chigusa Shinichi, Yusa Noriaki
2. 発表標題 How the Brain Processes Word Order in Japanese Sign Language: an fMRI Study
3. 学会等名 25th Architectures and Mechanisms of Language Processing (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 4.Koichi Otaki, Manami Sato, Hajime Ono, Koji Sugisaki, Noriaki Yusa, Soana Kaitapu, Ana Heti Veikune, Peseti Ve, Yuko Otsuka and Masatoshi Koizumi
2. 発表標題 The Acquisition of Wh-questions in Tongan: A Comprehension and Eye-tracking Study
3. 学会等名 Crosslinguistic Perspectives on Processing and Learning (X-PPL) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Koichi Otaki, Sato Manami, Ono Hajime, Yusa Noriaki, Sugisaki Koji, Kaitapu Soana, Veikune Ana Heti, Ve, Peseti, Otsuka Yoko, Koizumi Masatoshi
2. 発表標題 The ergative subject preference in the acquisition of wh-questions in Tongan
3. 学会等名 The 44th Boston University Conference on Language Development (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 音韻階層構造と外在化 I, II 那須川訓也
2. 発表標題 那須川訓也
3. 学会等名 慶應言語学コロキウム (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nasukawa Kuniya, Backley Phillip
2. 発表標題 Nasality and voicing in a modulated-carrier model of speech
3. 学会等名 The 27th Manchester Phonology Meeting (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nasukawa Kuniya
2. 発表標題 Phonetic linearisation of morpheme-internal phonological structure
3. 学会等名 Government Phonology Roundtable (GPRT) 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 那須川訓也
2. 発表標題 文末助詞と音韻分析 文末助詞の階層における情動計算不全としての自閉症の言語障害
3. 学会等名 東北大学文学研究科言語学研究室講演会 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 那須川訓也
2. 発表標題 音韻変異と外在化言語の多様性再考：外在化の観点から口頭
3. 学会等名 慶應言語学コロキウム (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 那須川訓也
2. 発表標題 音節構造の均一性と外在化による音声的多様性
3. 学会等名 日本英語学会第37回大会ワークショップ
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nasukawa Kuniya
2. 発表標題 Recursive structure constructed by phonological primes
3. 学会等名 Recursivity in Phonology Below and Above the Word (RecPhon2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nasukawa Kuniya
2. 発表標題 Analysing the asymmetry between nasality and voicing: A precedence-free approach
3. 学会等名 Workshop of Nasality and Laryngeal Representations in Phonology (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yoshimura Noriko, Nakayama Mineharu, Fujimori Atsushi
2. 発表標題 Japanese EFL Learners' Structural Misunderstanding: ECM Passives in L2 English
3. 学会等名 Hawaii International Conference on English Language and Literature Studies (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Snape Neal, Umeda Mari, Hosoi Hironobu
2. 発表標題 L1 Japanese and L1 Spanish L2 acquisition of English definite determiner phrases
3. 学会等名 J-SLA 2020 (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Roland Douglas, Mauner Gail, Hirose Yuki
2. 発表標題 The processing of pronominal relative clauses: Evidence from eye movements
3. 学会等名 the 33rd Annual CUNY Human Sentence Processing Conference (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Roland Douglas
2. 発表標題 The Linguistic Society of Japan English abstract writing workshop - three tutorials on abstract writing
3. 学会等名 日本語学会 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yamada Toshiyuki
2. 発表標題 Error analysis in SLA: L1 transfer or what?
3. 学会等名 The 20th International Conference of the Japan Second Language Association (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Fujimori Atsushi, Yoshimura Noriko, Nakayama Muneharu
2. 発表標題 Morphosyntactic misanalysis in the L2 acquisition of passive constructions
3. 学会等名 The 20th International Conference of the Japan Second Language Association (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yoshimura Noriko, Nakayama Muneharu, Fujimori Atsushi
2. 発表標題 Effects of animacy on Japanese EFL learners' comprehension of object relative clauses
3. 学会等名 Generative Approaches to Language Acquisition in North America (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Matthews John., Hirakawa Makiko., Suzuki Kazunori, Umeda Mari, Takeda Kazue., Fukuda Michiko, Snape Neal
2. 発表標題 Processing the interpretation of long distance and local anaphora with subject and object antecedents in Japanese
3. 学会等名 The Acquisition and Processing of Reference and Anaphora Resolution (APRAR2020)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Snape Neal, Umeda Mari, Hosoi Hironobu
2. 発表標題 L2 acquisition of the English count-mass distinction by Japanese and Spanish speakers
3. 学会等名 22nd Annual International Conference of the Japanese Society for Language Sciences (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名	Hirakawa Makiko, Matthews John, Suzuki Kazunori, Umeda Mari., Takeda Kazue, Fukuda Michio, Snape Neal
2. 発表標題	Offline judgment and online processing in interpreting floating numeral quantifiers among native speakers of Japanese
3. 学会等名	The 3rd International Conference on Theoretical East Asian Psycholinguistics (ICTEAP-3) (国際学会)
4. 発表年	2021年

1. 発表者名	Lupsa D. Cornelia, Yusa Noriaki Kim Jungho, Nasukawa Kuniya, Koizumi Masatoshi, Hagiwara Hiker
2. 発表標題	Effects of annual quantity of second language input on pronunciation in EFL environments
3. 学会等名	International Symposium on Issues in Japanese Psycholinguistic from Comparative Perspectives (招待講演) (国際学会)
4. 発表年	2021年

1. 発表者名	Otaki Koichi, Sato Manami, Ono Hajime, Sugisaki Koji, Yusa Noriaki, Otsuka Yuko, Koizumi Masatoshi
2. 発表標題	Case and word order in children's comprehension of wh-questions: A cross-linguistic study
3. 学会等名	International Symposium on Issues in Japanese Psycholinguistic from Comparative Perspectives (招待講演) (国際学会)
4. 発表年	2021年

1. 発表者名	山田敏幸
2. 発表標題	なぜ日本人英語学習者は「3単現-s」が苦手なのか：「文法性の錯覚化」からの検討
3. 学会等名	日本言語学会第163回大会 (国際学会)
4. 発表年	2021年

1. 発表者名 Yusa Mayuko, Xie Zhiguo Yusa Noriaki, ,Nakayama Mineharu
2. 発表標題 Do Chinese and English learners of Japanese accept sloppy interpretations with Japanese null arguments?
3. 学会等名 Fourth Chuo-UHM-UTokyo Student Conference on Linguistics, Psycholinguistics, and Second Language Acquisition (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yusa Mayuko, Xie Zhiguo Yusa Noriaki, ,Nakayama Mineharu
2. 発表標題 Acquisition of Japanese null arguments by second language learners
3. 学会等名 The 8th Generative Approaches to Language Acquisition-North America (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yoshimura Noriko, Nakayama Mineharu, Fujimori Atsushi, Yusa Noriaki
2. 発表標題 Is a gender distinction helpful for Japanese EFL learners in comprehending raising constructions?
3. 学会等名 The 15th Generative Approached to Second Language Acquisition (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yamada Kazumi, Miyamoto Yoichi
2. 発表標題 On the Interpretation of Null Arguments in L2 Japanese by German Speakers
3. 学会等名 2018 Annual Meeting of the Linguistic Association of Great Britain (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yamada Kazumi, Miyamoto Yoichi
2. 発表標題 Accounting for Null Argument Interpretation by L2/L3 German by Speakers of English and Japanese
3. 学会等名 The 8th Generative Approaches to Language Acquisition-North America (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yoshimura Noriko, Nakayama Mineharu, Fujimori Atsushi
2. 発表標題 Syntactic asymmetry in L2 learners' comprehension of raising constructions
3. 学会等名 The 18th Annual Conference of the Japan Second Language Association (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yoshimura Noriko, Nakayama Mineharu, Fujimori Atsushi
2. 発表標題 Intervention effects in L2 acquisition; A syntactic or processing account?
3. 学会等名 MAPLL-TCP-TL-TALK (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Nakayama Mineharu, Yoshimura Noriko, Fujimori Atsushi
2. 発表標題 Seem constructions in L2 English by Japanese EFL learners
3. 学会等名 50 Years of Linguistics at UCONN (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Fujimori Atsushi, Yamane Noriko, Nakayama Mineharu, Yoshimura, Noriko Wilson Ian
2. 発表標題 The perception of L2 information focus marking
3. 学会等名 The 7th Workshop on Phonological Externalization of Morphosyntactic Structure: Universals and Variables (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yamane Noriko, Teama Brian, Fujimori Atsushi, Wilson, Ian, Yoshimura Noriko
2. 発表標題 Haptic effect on intonation learning
3. 学会等名 The 2nd International Symposium on Applied Phonetics (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉村紀子
2. 発表標題 英語繰り上げ構文における項介在と主語 子供と大人の習得
3. 学会等名 第65回日本中部言語学会研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Nakayama Mineharu, Yoshimura Noriko, Fujimori Atsushi
2. 発表標題 Japanese EFL learners' acquisition of seem constructions
3. 学会等名 The Ohio State University-Tsukuba Linguistics Workshop (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nakayama Muneharu, Yoshimura Noriko, Fujimori Atsushi
2. 発表標題 Acquisition of seem constructions by Japanese EFL learners
3. 学会等名 International Conference on Theoretical East Asian Psycholinguistics 2 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Snape Neal
2. 発表標題 An intervention study in generic article choice by Japanese L2 learners
3. 学会等名 Hiroshima University (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Umeda Mari, Hirakawa Makiko, Snape Neal, Mathews John
2. 発表標題 Real-time processing of locality and animacy conditions for the Japanese reflexives by native and non-native speakers
3. 学会等名 Montreal Symposium in honour of Lydia White (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Matthew John, Hirakawa Makiko, Takeda Kazue, Umeda Mari, Fukuda Michiko, Snape Neal, Suzuki Kazunori
2. 発表標題 Establishing antecedent reference for L2 reflexive pronouns among L1 Chinese learners of Japanese: An eye tracking study
3. 学会等名 The 2nd International Symposium on Bilingual and L2 Processing in Adults and Children (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Snape Neal
2. 発表標題 The acquisition of articles (DPs)
3. 学会等名 J-SLA Autumn Seminar
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Roland Douglas, Hirose Yuki, Mauner Gail
2. 発表標題 Eye movement data and the causes of relative clause difficulty
3. 学会等名 the Annual Conference on Architectures and Mechanisms for Language Processing (AMLaP) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Asami Shiori, Roland Douglas, Morishima Yasunori
2. 発表標題 英語学習者向け代名詞処理を伴うリーディングスパンテストの開発
3. 学会等名 16th annual meeting of the Japanese Society for Cognitive Psychology
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yamada Toshiyuki
2. 発表標題 (Most) frequently observed grammatical errors of Japanese EFL learners even after the six years of English learning
3. 学会等名 MAPLL-TCP-TL-TALK (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Onuma Hitomi, Nasukawa Kuniya
2. 発表標題 Onuma, Hitomi & Kuniya Nasukawa
3. 学会等名 The 26th Manchester Phonology Meeting (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Nasukawa Kuniya, Backley Phillips
2. 発表標題 Element suppression: dependents are the first to go
3. 学会等名 The 26th Manchester Phonology Meeting (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Nasukawa Kuniya, Kula Nancy
2. 発表標題 "Epenthetic" consonants in nasal-consonant sequences: Consonant-vowel element interactions
3. 学会等名 Elements: State of the Art and Perspectives (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Nasukawa Kuniya, Backley Phillips
2. 発表標題 Phonological evidence for segmental structure: Insights from vowel reduction
3. 学会等名 Phonology Forum 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Nasukawa Kuniya
2. 発表標題 Voicing (VOT) contrasts and L2 acquisition
3. 学会等名 Seminar, University of Valencia (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 那須川 訓也
2. 発表標題 言語機能における音韻系の位置づけ
3. 学会等名 九州大学言語学研究会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 金情浩
2. 発表標題 日本手話の語順処理について
3. 学会等名 韓国日本語学会 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Noriaki Yusa
2. 発表標題 Sign Language Learners
3. 学会等名 関西学院大学手話言語センター国際手話フォーラム (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1 . 発表者名 Sachiko Kiyama, Maatoshi Koizumi and Noriaki Yusa
2 . 発表標題 Sensitivity to pragmatic markers predicts the degree of autism and depression in older adults: Evidence from sentence-final expressions in Japanese
3 . 学会等名 日本語用論学会20回大会
4 . 発表年 2017年

1 . 発表者名 Mayuko Yusa, Zhiguo Xie, Noriaki Yusa and Mineharu Nakayama
2 . 発表標題 Acquisition of Japanese null arguments by second language learners
3 . 学会等名 8th Generative Approaches to Language Acquisition-North America (国際学会)
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Matsumoto, K. & N. Snape
2 . 発表標題 Sensitivity to non-native contrasts in speech perception by child L2 learners of English
3 . 学会等名 EUROSLA 2017 (国際学会)
4 . 発表年 2017年

1 . 発表者名 Matthews, J., M. Hirakawa, K. Takeda, M. Fukuda, M. Umeda, N. Snape & Y. Hirakawa
2 . 発表標題 Mental Architecture for Processing and Learning of Language, and Tokyo Conference on Psycholinguistics
3 . 学会等名 MAPLL-TCP (国際学会)
4 . 発表年 2017年

1. 発表者名 Snap Neal and Umeda Mari
2. 発表標題 Article choice by Japanese L2 learners: An intervention study
3. 学会等名 University of Greenwich (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Snape Neal
2. 発表標題 Heritage language reversal: The production of voice onset time (VOT) and perception of dental fricatives by a Japanese returnee
3. 学会等名 University of Essex (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Snape Neil
2. 発表標題 Heritage language reversal: The production of articles and voice onset time (VOT) by Japanese returnees
3. 学会等名 University of Southampton (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Snape Neal and Umeda Mari
2. 発表標題 Article choice by Japanese L2 learners: An intervention study
3. 学会等名 University of Greenwich (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Snape, Neal and Umeda Mari
2. 発表標題 Teaching English article choice to L2 learners
3. 学会等名 University of Swansea (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yoichi Miyamoto and Kazumi Yamada
2. 発表標題 On a mixed nature of L3 Spanish grammar of L1 Japanese subjects with L2 English
3. 学会等名 International Symposium on Monolingual and Bilingual Speech 2017 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Koizumi Masatoshi
2. 発表標題 Phrase Structure and Processing Load in Truku Seediq
3. 学会等名 Experiment and Theory in Syntax and Semantics, Crete Linguistics (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Jeong Hyeonjeong
2. 発表標題 言語コミュニケーションの神経基盤: MRIの中で対面コミュニケーションは可能か
3. 学会等名 日本心理学会 第81回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Jeong Hyeonjeong, 鈴木渉, 齋藤玲
2. 発表標題 コミュニケーションと言語適性：脳機能イメージング研究
3. 学会等名 全国英語教育学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Nasukawa Kuniya and Phillip Backley
2. 発表標題 Domain boundary marking is parametric
3. 学会等名 The 25th Manchester (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Nasukawa Kuniya and Phillip Backley
2. 発表標題 Representing domain boundary markers: how and where
3. 学会等名 The 15th Annual Conference of the French Phonology Network (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Nasukawa Kuniya and Phillip Backley
2. 発表標題 H and L have unequal status
3. 学会等名 Phonology Forum 2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Nasukawa Kuniya and Phillip Backley
2. 発表標題 Asymmetry between the laryngeal primes [H] and [L]
3. 学会等名 Beyond VOT; searching for realism in laryngeal phonology, The 47th Poznan Linguistic Meeting (PLM2017) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Nasukawa Kuniya
2. 発表標題 Recursive Merge and elements
3. 学会等名 Government Phonology Roundtable (GPRT) 2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Backley, Phillip and Kuniya Nasukawa
2. 発表標題 Segment-internal structure: evidence from vowel reduction
3. 学会等名 The 15th Old World Conference in Phonology (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計17件

1. 著者名 遊佐典昭	4. 発行年 2019年
2. 出版社 金星堂	5. 総ページ数 440(79-94担当)
3. 書名 学問的知見を英語教育に活かす 理論と実践	

1. 著者名 遊佐典昭	4. 発行年 2019年
2. 出版社 開拓社	5. 総ページ数 304 (250-275担当)
3. 書名 言語におけるインターフェイス	

1. 著者名 遊佐典昭、大滝宏一	4. 発行年 2020年
2. 出版社 くろしお出版	5. 総ページ数 232 (1-29担当)
3. 書名 第二言語習得研究の波及効果 - コアグラマーから発話まで -	

1. 著者名 宮本陽一, 山田一美	4. 発行年 2020年
2. 出版社 くろしお出版	5. 総ページ数 232 (177-200担当)
3. 書名 第二言語習得研究の波及効果 - コアグラマーから発話まで -	

1. 著者名 Snape Neal	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 221 (155-178)担当
3. 書名 Formal Linguistics and Language Education: New Empirical Perspectives	

1. 著者名 Nasukawa Kuniya	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Mouton de Gruyter	5. 総ページ数 424
3. 書名 Morpheme-internal Recursion in Phonology	

1. 著者名 Flores Cristina, Snape Neal	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Cambridge University Press	5. 総ページ数 988 (351-372担当)
3. 書名 Cambridge Handbook of Heritage Languages and Linguistics	

1. 著者名 Jeong Hyeonjeong	4. 発行年 2021年
2. 出版社 大修館書店	5. 総ページ数 173 (135-148担当)
3. 書名 外国語学習での暗示的・明示的知識の役割とは何か	

1. 著者名 遊佐 典昭、杉崎 鉦司、小野 創他	4. 発行年 2018年
2. 出版社 開拓社	5. 総ページ数 364 (担当2-93)
3. 書名 言語の獲得・進化・変化	

1. 著者名 Miyamoto Yoichi, Yamada Kazumi	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ISMBS	5. 総ページ数 325 (担当 146-173)
3. 書名 Crosslinguistic Research in Monolingual and Bilingual Speech	

1. 著者名 吉村紀子・中山峰治	4. 発行年 2018年
2. 出版社 くろしお出版	5. 総ページ数 246
3. 書名 第二言語習得研究への誘い：理論から実証へ	

1. 著者名 Yoshimura Noriko, Nakayama Mineharu他	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Cambridge Scholars Publishing	5. 総ページ数 502 (担当 251-266)
3. 書名 Proceedings of GALA 2017	

1. 著者名 小泉政利・安永大地・加藤幸子他	4. 発行年 2019年
2. 出版社 くろしお出版	5. 総ページ数 240 (担当135-152)
3. 書名 レキシ コン研究の新たなアプローチ	

1. 著者名 Noriaki Yusa	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Frontiers Media SA	5. 総ページ数 79 (担当 32-42)
3. 書名 Language Development in the Digital Age	

1. 著者名 小川 睦美、白畑 知彦、須田 孝司	4. 発行年 2017年
2. 出版社 くろしお	5. 総ページ数 186
3. 書名 名詞句と音声・音韻の習得	

1. 著者名 Nasukawa, Kuniya, Phillip Backley & Hitomi Onuma	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Cambridge Scholars Publishing	5. 総ページ数 342 (担当 216-231)
3. 書名 Language Acquisition at the Interfaces: Proceedings of Generative Approaches to Language Acquisition (GALA) 2015	

1. 著者名 遊佐 典昭、杉崎 鉦司、小野 創	4. 発行年 2018年
2. 出版社 開拓社	5. 総ページ数 364 (担当 2-93)
3. 書名 言語の獲得・進化・変化	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	小泉 政利 (Koizumi Masatoshi) (10275597)	東北大学・文学研究科・教授 (11301)	
研究分担者	S n a p e N e a l (Snape Neal) (10463720)	群馬県立女子大学・国際コミュニケーション学部・教授 (22302)	
研究分担者	宮本 陽一 (Miyamoto Yoichi) (50301271)	大阪大学・言語文化研究科(言語文化専攻)・教授 (14401)	
研究分担者	山田 敏幸 (Yamada Toshiyuki) (50756103)	群馬大学・教育学部・講師 (12301)	
研究分担者	J e o n g H y e o n j e o n g (Hyeonjeong Jeong) (60549054)	東北大学・国際文化研究科・講師 (11301)	
研究分担者	ローランド ダグラス (Douglas Roland) (60749290)	早稲田大学・理工学術院・准教授(任期付) (32689)	
研究分担者	金 情浩 (Kim Junggho) (70513852)	京都女子大学・文学部・准教授 (34305)	
研究分担者	那須川 訓也 (Nasukawa Kuniya) (80254811)	東北学院大学・文学部・教授 (31302)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	吉村 紀子 (Yoshimura Noriko) (90129891)	静岡県立大学・その他部局等・客員教授 (23803)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計2件

国際研究集会 Roumyana Slabakova's Seminar and Talk	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 海外協力者のRoumyana Slabakova教授を招聘して科研の研究会および公開講演会	開催年 2018年～2018年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関